

大阪では、この数日、急に暖かくなり、春の訪れを実感します。そろそろ「桜の花だより」が聞かれることでしょう。現在会員登録数 1,644 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は4月21日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 55

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,457 編、絵本 370 編、計 2,827 編の中から、入賞作品 38 編を決定しました。

・童話の部 大賞『タンポポの金メダル』 山本 早苗 さん

・絵本の部 大賞『せかいのはての むこうがわ』 たなか やすひろ さん

上記の2作品は、後日、絵本として出版されます。

◇入賞作品展 3月27日(金)まで開催中

大阪府立中央図書館1階エントランスおよび国際児童文学館展示コーナー

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／ 入場無料

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● ウェブサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました

インターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました。佐々木マキさんの絵本に登場する「ムッシュ・ムニエル」や「ねむいねむいねずみ」をナビゲートに、クイズや思いついたことばによる本の検索を楽しむことができます。

今回、テーマ、キャラクターのコンテンツの追加や、「本さがしゲーム」の更新、作家インタビューの追加などを行いました。また、タブレットやスマートフォンでも利用していただけるようになりました。

※ 平成26年度子どもゆめ基金 教材開発・普及助成活動

<http://www.justice.co.jp/iiclo/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充

てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。  
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『コケシちゃん』佐藤まどか/作 木村いこ/絵 フレーベル館 2014年11月  
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：声が小さくて気が弱く、絵を描くのが好きな小学4年生のくるみの隣の席に、スイスから京が1か月の体験入学にやってきた。くるみの似顔絵から京はコケシちゃんと呼ばれるようになるが、見かけは日本人でも思ったことをはっきり言う性格にくるみは落ち着かない。いじめっ子の出井君は京を協調性がないといじめる。そんな中、クラス全員で一枚の絵を描くことになって、くるみがリーダーに選ばれる。

O：海外からの1か月だけの体験入学を題材にした作品は 今までに読んだことがなかったので新鮮に感じました。

Y：異文化のぶつかり合いが会話を通してテンポよく描かれていておもしろかったです。コケシちゃんこと京ちゃんが、掃除や給食当番を子どもがすることに疑問を感じるなど、なるほどと思いました。

O：大量の一輪車にびっくりしたのもおもしろかったですね。はっきりと意見を言う京ちゃん、いろいろと考えながらも自分の気持ちを言葉で表せないもどかしさを感じているくるみちゃん、家庭に問題を抱えたいじめっ子の出井君など、わかりやすいキャラクターではありましたが、魅力的に感じました。

Y：くるみちゃんが京ちゃんに影響され、少しずつ大きな声が出せるようになったり、自分の意見が言えるようになったりする一方、京ちゃんもみんなと一緒に一つのものを作る楽しさを学ぶというようにお互いが変化していったことが納得できました。また、出井君も京ちゃんと徹底的に言い合いをすることによって変化していく様子もユーモラスに描かれていると思いました。

O：大人の姿を描かないで、子どもたちだけに焦点をあわせて展開させていますね。

Y：作者は当財団が主催する「日産 童話と絵本のグランプリ」の2005年童話大賞の受賞者でイタリア在住です。

O：作者の海外での体験は、はっきり自分の態度を言葉で主張できないとやっていけない主人公のキャラクターに反映されているようです。いま、日本では海外留学が減り、翻訳文学が読まれなくなり、洋楽も人気がない、そんな内向きになっている文化状況を言葉の力で突き破って欲しいという作者の思いも読み込んでしまいました。

\*\*\*\*\*

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 55

\*\*\*\*\*

その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 5

前回は「二ひきのよくばり子グマ」（『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編 実業之日本社 1964年）の飽きさせない展開について確認しましたが、今回は登場人物について考えたいと思います。

このお話の登場人物は2匹の兄弟子グマ、おかあさんグマ、キツネです。4人ですので、多すぎて混乱することはありません。また、一度に出てくるのは子グマ+おかあさん、子グマ+キツネで、4人が一度に登場することはありません。

おかあさんグマは子グマを送り出すという役割を担っていて、「けんかをしては、いけないよ」と、世の中を渡っていくためのルールを教えます。子グマたちはこれに失敗してしまいます。

子グマは兄弟です。まず、弟が朝から何も食べていないから歩けないと言って泣き出します。兄は「ぼくだって」と言いながらも、ため息をついて歩き続けます。兄に甘える弟、兄という役割を持て余す兄さん、せりふは一つずつですが、それぞれの性格がしっかりと描き分けられています。

ところが、チーズを見つけたとたん、対等になって、どちらが分けるかでけんかを始めます。弟は弟だからこそ、望んでいるものは手に入ると考え、兄は年上だからこそ、物を分けるという行為は自分こそがふさわしいと考えます。これらの兄弟のけんかの様子は子どもたちにとってとても身近であると考えられます。兄弟はどうあるのが平等なのか。食べ物はどう分けるのが適当なのか。究極の問題です。

そこへ、キツネのおばさんがやってきます。お母さんのように子どもを庇護する大人ではなく、子どもから搾取する大人、厳しい世間の象徴です。優しい声をかけながら、子どもをまんまと騙す徹底的に悪くてずるい大人というイメージはとてもはっきりしていてわかりやすく魅力的な悪役です。

このように、この作品の登場人物はそれぞれが子どもに理解しやすく、はっきりとした魅力的なキャラクターとして描かれています。

\*次号は「その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 6」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

\*\*\*\*\*

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在情報データベース補遺篇〈その5〉

ご紹介するのは以下のサイトです。

● 文化庁 メディア芸術データベース（開発版）

<https://mediaarts-db.jp/>

3月16日から公開された、マンガやアニメーション、ゲーム、メディアアートなどを横断的に検索できるサイトです。

文化庁では、平成 22 年から 5 年の歳月をかけてプロジェクトを実施、我が国の「メディア芸術作品の全体像（作品情報及び所蔵情報）の調査、作品のデジタル化に資する事例検証等」（プレスリリースより）を行ってきました。その成果として、マンガをはじめとするメディア作品の所蔵情報がデータベース化され、公開されました。当財団もマンガのデータベース構築に関わって協力しました。

そのマンガで言えば、サイトの特徴として、国内の主要な資料所蔵機関が参画し、横断検索が可能になっていることがあります。国会図書館、川崎市市民ミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館、京都国際マンガミュージアム、そして大阪府立中央図書館国際児童文学館など、国内で貴重なマンガを所有する機関がデータを提供しています。単行本が約 23 万冊、雑誌巻号が 11 万冊など、マンガに特化したデータベースとしては国内最大級といえます。

もう一つの特徴は、マンガ雑誌の目次情報が入力されたこと。「週刊少年サンデー」（小学館）、「週刊少年マガジン」（講談社）、「週刊少年ジャンプ」（集英社）、「週刊少年チャンピオン」（秋田書店）、「なかよし」（講談社）、「りぼん」（集英社）、「ちゃお」（小学館）など、マンガ研究では重要な雑誌の目次が入力され、検索可能になったことは大変意味があると思われまます。まだまだ採録誌は少ないですが、今後も入力を組織的に進めていければ、より研究に有用なデータベースになると思われまます。

そのほか、TV 放映アニメ・劇場版アニメなどが約 9,000 タイトル、家庭用ゲーム対応ソフトや PC ゲームが約 35,000 タイトル掲載されており、これまでに存在しなかったデータベースとして注目されます。サブカルチャーの研究や出版が盛況ですが、こうした分野にも貢献できるのではないのでしょうか。※次号は、資料所在情報データベース補遺篇〈その 6〉の予定です。（J）

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

大阪梅田のグランフロント北館 ナレッジキャピタルで、4 月 19 日まで開催されている「ティム・バートンの世界」展に行ってきました。

ティム・バートンは、「シザーハンズ」「ナイトメア・ビフォア・クリスマス」などの映画監督として有名ですが、この展覧会では、自身が描いた油絵、スケッチ、デッサンや、映像作品、オブジェなど約 500 点の作品が展示されています。

展示は、テーマ、モチーフ、プロジェクトごとに 10 のセクションに分けられています。「アラウンド・ザ・ワールド」というセクションでは、飲食店の紙ナプキンやホテルのメモ用紙などに思い付いたその場で書きとめたイラストが、壁面にびっしり並んでいます。みなさん、見覚えあるキャラクターを発見したりしながらじっくり見ている、行列ができていました。

「実現しなかったプロジェクト」のセクションには、1～10 の数字をモチーフに、子ども向けの本のために描かれたという絵がかわいくて少し不気味

で気に入りました。出版されなかった理由は書かれていませんでしたが、もったいないなと思いました。

「フィルムキャラクター」のセクションでは、スケッチや人形や模型などで、おなじみの映画の世界に浸れます。絵に描かれた構想どおりに実写化されていることがわかっておもしろいです。

無名時代、ディズニーのアニメーターとして働いていた頃、映画監督になってからなどいろいろな年代の、さまざまな作品が紹介されていますが、ティム・バートンの独特の世界観が昔から変わっていないのが興味深かったです。

映像コーナーも5つあり、アニメーション『ステインボーイ』や、若い頃に撮影した自ら出演している映画など、たっぷり上映されています。全て見たいのもう1回行くことになりそうです。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in 京都

##### 第1部 記念講演「仕事としての絵本創り」

講師：とよたかずひこ（絵本作家）

##### 第2部 トーク&トーク「子どもの育ち・ことば・絵本」

パネリスト：とよたかずひこ（絵本作家）

川端春枝（京庫連会員）

コーディネーター：土居安子（当財団 主任専門員）

日時：3月29日（日）午後1時～4時

場所：京都市子育て支援総合センター こどもみらい館（京都市中京区）

定員：80人 参加費：有料 申込み：必要

主催：大阪国際児童文学館を育てる会 / 京都家庭文庫地域文庫連絡会

後援：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 / 大阪府子ども文庫連絡会  
/ 京都市教育委員会 / 京都新聞社 / 京都市社会福祉協議会

#### ● 第25回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月15日（水）～5月15日（金）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）

・一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ：箕面市立西南図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます /

---

### 【4】プレゼント

